

第3章 草津線（柘植～草津）

第1節 概要

平成29年10月15日（日）～16日（月）、昨日の立命館大学数物会総会出席後の時間を有効活用し、草津線踏破に挑戦する。当初は亀山をスタートして草津を目指すところであったが、生憎の雨で急遽、草津線の柘植（つげ）～草津までの営業キロ36.7kmに切り替える。この路線を踏破し、通算営業キロは9,283km（活動日数462日）となる。

第7回数物会総会模様



JR 草津駅から徒歩 10 分位の草津第一ホテルに 2 泊して、平成 29 年 10 月 15 日（日）と 16 日（月）の二日間で、柘植駅から草津駅まで続く営業キロ 36.7 km の草津線を踏破する。

一日目は、柘植駅まで電車で行き、柘植～油日～甲賀～寺庄～甲南～貴生川～三雲～甲西と営業キロ 24.3 km を歩く。二日目は、再び電車であ西駅まで行き、甲西～石部～手原～草津と営業キロ 12.4 km を歩く。今回は天のご加護がなく二日とも生憎の雨の中での歩きとなる。しかし雨で集中力を欠いたが、お蔭様で柘植から草津までの 10 駅をすべてクリアできる。甲賀駅では日本最大坐仏観音の案内があった。



柘植駅 伊賀への案内板



歩いて、この路線は忍者縁の路線であると痛感。すなわち、伊賀・甲賀の標識や忍者が随所に登場したからだ。また、立派な苔をつけた老木の桜には感無量となる。雨で歩きにくく苦労したが、いい勉強をさせて頂いた。同時に、亀山～柘植～加茂～木津～奈良と続く関西本線への踏破への夢が新たに湧いてくる旅でもあった。

第2節 1日目：10月15日（日）：柘植～甲西 雨

柘植(8:21)～油日(10:36)～甲賀(11:13)～寺庄(12:10)～甲南(13:03)～貴生川(13:52)～
三雲(15:25)～甲西(16:42)

6時過ぎに起床。草津駅7時29分発の電車で柘植（つげ）駅に向かう。8両編成で、先頭から4車両は柘植まで、残りの4車両は貴生川までであった。草津線は単線のため、石部駅等で上り電車の待ち合わせで数分停車した。日曜日にも関わらず、私の乗った車両は満席状態であった。しかし、寺庄駅で沢山の高校生が下車したので車内には空席もできる。車内から見た限りでは、草津線に沿って幹線道路らしき路があった。三雲駅と貴生川駅に杣川があり迂回の負荷を強く感じる。近江鉄道本線に沿って街並みが続いていた。また、柘植駅手前で山並みや沼などが登場し、鉄道に沿った幹線道路が途切れる。そんなことを観察している内に、柘植駅には8時21分到着。



柘植駅

いがまち観光案内図



柘植公民館等の案内板

関西本線の踏切

草津線の電車

柘植駅到着する否や、駅舎の至る所に忍者のデッサンがあるのには驚いた。ホームには加茂行きの列車が停まっていた。駅員さんに油日駅への近道を教えて頂く。しかし、後で

気がついたのであるが、教えてもらった路ではなかった。柘植駅をデジカメに収めて油日駅を目指しスタート。駅前の地図を確認。この駅は関西本線が合流、かつ杣川と小高い山があり複雑な地形をしていた。それ故、道に迷わないようにするため、駅前で二人の地元の方に聞く。2から3km位迂回する。8時57分、倉部川（宮前橋）を通過。その先に柘植公民館や歴史資料民族館などの案内板があった。9時5分、関西本線（非電化？）の小杉踏切を横切る。9時7分、倉部北の交差点の幹線道路（県道4号線）を関西本線に沿って歩く。9時24分、草津線の上り電車を捉え、草津線を跨ぐ。



伊賀の国



余野公園



県境



9時29分、余野公園があり、その先に滋賀県甲賀市と三重県伊賀市があった。9時46分、高間みずべ公園への案内板（2.5m先右手）あり。甲賀町油日や草津伊賀線（県道4号線）の地名も登場。左手には草津線の線路が続いていた。10時6分、双鈴CC（土山コース）前を通過。10時30分、赤い鳥居のある油日大明神前を通過。10時34分、赤いマークがある大田踏切を横切り鉄道の左側となる。その先に本日最初の油日駅（10時36分）があった。線路に沿って苔のある老木の桜があった。この辺りから小雨模様から本格的な雨となる。



貫禄ある桜（苔で一杯）



油日駅

10時41分、再度小学校踏切を横切り鉄道の右側を歩く。その先に忍者のマークのある甲賀町上野の道路標識があった。10時47分、幹線道路下を潜る。鉄道に沿った直線道路を歩く。11時3分、櫛野（いちの）川を横切る。11時6分、老木桜のある市神神社に本日の無事歩きを遠くから祈願する。11時13分、甲賀駅に到着する。駅舎には忍者像がある待合室があった。駅前には文化と歴史、温泉の旅の看板があった、その中に日本最大坐仏観音の画像もあった。この駅から本格的な雨となる。



油日駅界限

甲賀駅界限



甲賀駅待合室

甲賀駅



日本最大大坐仏観音

11時34分、天満宮の標識と対面、そしてその先に私の友人と同じ名称をもつ高野という地名を通り過ぎる。11時37分、右手に甲賀の里“忍者村”の案内板があった。11時48分、新名神高速道路下を潜る。11時53分、滋賀甲賀カントリークラブ前を通過。それにしても

この沿線にはゴルフ場が多いのにはビックリ。12時3分日吉神社前を通過。甲賀市議員や衆議院選挙のための宣伝カーと数台対面する。12時10分、寺庄駅に到着する。この駅で点眼する。12時10分、佐山踏切を横切り鉄道の左側となる。12時18分、朝電車の中で対面した高校生の在学高と思える県立甲南高校前を通過する。12時34分、佐活川に沿って歩く。42歩ある浅間橋を渡る。小径を歩く。12時38分、久保踏切を横切り鉄道の右側を歩く。



寺庄駅

浅間橋

12時47分、元気村と記したサンサン施設と対面。美空ひばりの愛燦燦を思い出すと同時に元気をもらおう。12時58分、峯ヶ巣踏切を横切り鉄道の左側に出る。この踏切で大事なメモ帳をロストしたような錯覚をする。一瞬間の中が真っ白になる。50m位引き返す。再度チェックした結果、別の場所にメモ帳を格納していることに気付き安堵する。5分位ロスタイムする。13時3分、甲南駅に到達する。駅前の鏡に自分を捉える。



甲南駅

宝木踏切

13時34分宝木踏切を横切り、鉄道の右側に。そして虫生踏切を横切り鉄道の左側となる。13時52分、やっとのことで貴生川駅に到着する。ここで、友人の朝日君からのラインを確

認するが、悪天候もあり余裕がなくうまく対応できず。駅前には宿泊所が何か所かあった。一例として、ビジネス旅館古城（62-1262）があった。14時民家の窓の中から愛嬌ある3匹の猫をデジカメに収める。



貴生川駅 愛嬌のある猫

14時4分、万歩計で1,180歩ある杣川（そま）を渡る。本降りの雨で視界狭し。自転車に乗った女子高校生に草津方面を確認する。杣川に沿った先を歩くと行けるとの回答を頂く。安堵する。道路標識にも草津の表示はなかったが、湖南や栗東の地名があった。栗東という地目は東海道本線踏破の際、踏破した駅なので安堵したが、このときは栗東が登場するのかは理解できなかった。杣川に沿って歩く。結果的にこの道筋は大成功であった。唯一鉄道に沿った分かりやすい幹線道路であった。14時15分、高山踏切を横切り、鉄道の右側となる。貴生川～三雲間の踏切という表示があり安堵する。貴生川駅はJR草津線の他に近江鉄道本線や信楽高原鉄道信楽線が合流して、複雑な地形をしていたからだ。朝電車を見て勉強したのが功を奏した。“川を渡る必要がある”が強く脳裏に焼き付いていた。14時29分、笠山神社や最勝寺の案内板があった。ひたする鉄道と杣川（野洲川）の間を歩く。14時46分、湖南市に入る。15時20分、田二川踏切で下り電車と対面する。直ぐ近くに常夜燈があった。15時25分、三雲駅に到着する。



杣川

三雲駅への路

三雲駅

それにしても貴生川駅から三雲駅までは山間の歩きで遠かった。15時58分、吉永交差点から幹線道路に出る。ローソンでコロッケパンにて遅い昼食(15時55分)を摂る。それにしても、これまで歩く道筋には昼食をとれる店とは残念ながら1軒も対面できず。できれば寺庄駅辺りでランチタイムにしたかったのであるが……。雨は多少小振りとなる。16時26分、新田(シンデン)踏切を横切り鉄道の左側を。16時37分、針踏切を横切り鉄道の右側となる。真っ直ぐ歩いた先に甲西駅(16時42分)があった。本日はこの駅でアップ。



遅い昼食 甲西駅

この駅で柘植駅でのパスモ精算(草津～柘植:670円)をしてもらう。貴生川から柘植駅まではパスモは使用できないとのことであった。篠ノ井線や烏山線を思い出した。運よく16時45分の電車に乗れる。草津駅には17時過ぎ到着。駅前の蕎麦屋で夕食を摂る。ホテルの近くのローソンに立ち寄って祝杯の材料を購入。ホテル(616号室)には18時40分到着。ホテルで祝杯をあげる。本日の営業キロは24.3km、万歩計は55,651歩だった。雨の中の歩きで疲れたが、忍者の縁の里を歩け充実した一日であった。



草津第一ホテル ホテルからの風景

第3節 2日目：10月16日（月）：甲西～草津 雨

甲西(8:23)～石部(9:33)～手原(11:09)～草津(12:14)

5時起床。本日の作戦を練る。7時前ホテルで朝食を摂り、8時2分の電車で甲西駅（8時23分着）に向かう。昨日と同様、石部駅で上り電車離合のため数分停車する。甲西駅で8時30分のチャイム（市役所？）を聞く。8時58分、日光化成の工場があった。2度程大型トラック車輪によるしぶきをかけられながら幹線道路を歩く。9時1分、石部自動車教習所前を通過。9時14分、石部口で幹線道路から外れ、しぶきから開放される。9時28分、石部踏切を横切り鉄道の左側を歩く。しかし、駅が見えるが工場や民家があり中々到着できず。やっと9時33分、本日最初の踏破駅である石部駅に到着する。



草津駅



甲西駅

石部駅

駅に面して、憩いの間があった。この駅から原則鉄道の左側を歩く。9時48分、宮川橋を渡る。9時49分、10時5分、高架道路下を潜る。10時26分、薬師如来堂、長徳寺前を通過。10時26分、りっとう市民秋祭り（11月11日）のポスターもみる。ここで今歩いているエリアが栗東市と認識する。昨日の栗東という地名と照合できる。10時31分、六地藏地蔵尊があった。10時38分、農道に入る。11時、高速道路下を潜る。11時5分、手原醤油顕彰碑前を通過。その先に稲荷神社がある。香川県縁の庵治石で作成された石像が多々あった。11時9分、三角が印象的な手原駅に到着する。



六地藏地藏尊



庵治石



手原駅

11時23分、国道一号線に出てニューヨークにある女神像を遠目から捉える。11時26分、上鉤（かみまがり）交差点に到達。その先にベンツを取り扱っているヤナセのビルがあった。草津3km、大津19kmの道路標識前を通馬。11時39分、下り新幹線が通過する線路下を潜る。11時57分、国道1号線から離れ右折する。偶然にも見かけた光景に（11時58分）出会う。それは二日間お世話になったローソンや草津第一ホテルが目の前にあったからだ。12時1分、渋川東交差点を左折する。12時5分、新若竹橋を通り草津駅には12時14分到着。昨夜と同様、草津駅舎にある廻家にて天ぷらそばで昼食を摂る。運よく直ぐの連絡（12時53分）の電車で米原に向かう。米原駅でお土産と祝杯用の材料を購入し、ひかり522号（13時57分発）で自宅に。自宅には17時18分到着。本日の営業キロは12.4km、万歩計は29,332歩だった。昨日、本日も雨であったが、草津線を踏破できてよかった。



新幹線下



草津第一ホテル前



草津駅



どの路線にも必ず駅舎を踏破するのに難しい箇所がある。今回のシリーズでは2ヶ所あった。一つは山の障害物により2 km位迂回を余儀なくされた柘植駅から油日駅までの区間。この間には三重県伊賀市と滋賀県甲賀市との県境があった。もう一つは、貴生川駅から三雲駅までの区間。杣川（そまがわ）があり、かなり迂回を余儀なくされる。しかもこの区間雨が強くなり視界が悪かったこともあり、進路を誤らないよう相当のエネルギーを消耗する。その理由は貴生川駅にはJR草津線に加え、近江鉄道本線や信楽高原鉄道信楽線が合流していたからだ。高山踏切は、当初は信楽線の踏切と思ったが、貴生川～三雲間の踏切と記載があり安堵する。

貴生川駅界限には大学時代の友人がおり、時間があれば再会したいと考えていたが、雨対策に追われて全く余裕が持てず連絡を取れず残念の結果に終わる。でも、思いがけなく貴生川駅を過ぎたところで、民家の窓から可愛らしい3匹の猫と対面でき心が和む。

天気が良ければ、また夏であれば、甲西駅でアップするのではなく、一気に草津駅まで踏破しただろう。しかし、10月の中旬になると日も相当短くなるので、一日目は16時半過ぎ、甲西駅でアップする。翌朝、甲西駅からの歩きとなる。石部駅までは県道1号線を歩いた関係で大型トラックに随所で水をかけられる場面に遭遇する。この時、今では原発の

影響で歩けない、平成 22 年 4 月 5 日（月）雨の中を歩いた常磐線（浪江～富岡）を思い出した。言葉が出てこない……。石部駅からはトラックの走らない道筋に切り替え、無事 12 時 15 分、草津駅に到達する。

今回の旅は雨の中ではあったが、有言実行でき、毎年目標としている営業キロ 500 km まで約 50 km と迫った。何とかこの目標を達成し、一日でも早く 1 万キロ（残り 717 km）を踏破したいものだ。

第 4 節 心温まるメッセージ

元フコク生命時代の仲間から心温まるメッセージ(雨の中の行軍)を頂戴する。ご紹介します。

(^_^)♪.....(^_^)♪.....

雨の中を迂回しながら、かつトラックの水しぶきを受けながら……大変な苦行のようですが、あんまり無理をなさらないように！

北海道も北の方は雪の便りですが、道南の我が家はまだ氷点下には遠いようです。

でも、先日の日曜日で常設 BBQ コーナーも店じまいしました。（飲みすぎました）

テントが乾く収納タイミングを待っているところです。

そしてベランダの沢山ある鉢植えはベランダ脇のガラス張りの中と玄関フードに入れ、残りは土を入れ替えて家の中に取り込むために準備作業中です。

もうすぐ駒ヶ岳も初雪の時期です。

庭のイタヤカエデも赤と黄色に色づいています。

体調にお気をつけて 1 万キロを頑張ってください。

からまつの森 長尾昇蔵